

1 サンパウロ州

4月8日（水）発表

- 8日（水）17時現在、州内の感染者は6708人（前日5652人）、死者は428人（同371人）。感染が確認されたのは州内全645市のうち136市（同121市）。死者の68%が60歳以上。
- サンパウロ州政府は、コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、イースターの連休にあたる今週末（10～12日）も旅行を避けるよう要請。州沿岸部のビーチなども現在は全て閉鎖しているとして、引き続き外出自粛を求める方針。なお、同期間もフェイラや市営食料品店（sacolões municipais）等は条件付きで営業。
- サンパウロ州保健局は、コロナウイルス患者に対する抗マラリア薬「クロロキン」の投与は患者が同意した場合のみ処方可能と説明。伯保健省よりサンパウロ州に対して20万錠配布済み。
- 消費者保護を強化するため、同州消費者保護団体（Procon）代表のフェルナンド・カペス氏を同州政府消費者保護特別局長に任命。期間は120日。アルコールジェルやガスボンベ以外の様々な商品についても不当な価格で売買されていないか監視を強化する。
- 同州政府は、州立学校に通う貧困層の生徒73万2千人を支援するため「お家で給食（Merenda em casa）」プログラムを開始。休校で給食が食べられない生徒の支援が目的。生徒一人当たり月55レアルを支給する。州政府は本プロジェクトのため、4月と5月にそれぞれ4千万レアルを投じる予定。
- サンパウロ市は、ANVISA（国家衛生監督庁）による認可を受けたワクチンであっても、接種後に何らかの異常がみられた場合にはブタタン研究所の医薬品監督局を通じて無料対応すると発表。同局は連絡を受け次第、対象患者に関するデータを集めて分析する。問い合わせはメール（sac@butantan.gov.br）等。
- サンパウロ市は、民間裁縫業者や手工芸品製造者と契約の上、医療必需品を委託生産すると発表。予算は200万レアル。医療用のマスクを100万以上、顔面防護具及びエプロンを50万以上生産できる見通し。
- サンパウロ市は、公立学校の生徒や教員を対象にフェイクニュース対策のオンラインコースを開始と発表。また、州立技術大学（Etec）の看護学生によるインフルエンザワクチン投与は既に約8千人が恩恵と発表。

2 マット・グロッソ州

4月8日（水）発表

- 8日（水）17時現在、州内の感染者は90人（前日78人）、うち州都クイアバ市が50人、ロンドノポリス市が7人、ヴァルゼア・グランデ市及びシノピ市が6人と続く。計15人が入院中。死者は1人。
- 同州政府は「ボルサ・ファミリア」（低所得者向け社会福祉プログラム）を受給する州内5万5千家族を対象に、4月20日（月）から食料パックの配布を開始すると発表。

3 マット・グロッソ・ド・スル州

4月8日（水）発表

- 8日（火）10時現在、州内の感染者は85人（前日80人）、うち州都カンポ・グランデ市が48人、ノヴァ・アンドラジーナ市が9人、トレス・ラゴアス市が8人と続く。計16人が入院中。死者は2人。
- 同州政府は、3月19日（木）に宣言した災害事態が8日付連邦政府官報で承認されたと発表。
- アザンブジャ同州知事は社会的距離の確保を改めて要請。6～7日の同州民による社会的距離の確保を示した割合が全州でワースト2位だったことを受けたもの。感染拡大や医療崩壊を避ける上で必須と説明。
- 同州政府は、コロナウイルスの感染拡大を受けた経済対策を策定すると発表。州内医療機関の体制強化を引き続き講じつつ、州民の財政的損失を最小限にする対策を検討する。
- 同州政府は、州消防局によるコロナウイルス電話相談（Dique Dúvidas Coronavírus）の受付が開設2週間で約1400件あったと発表。感染疑いの症状や予防策等に関する相談が中心。（了）